

1. 単元名 「 ひきざん(2) 」

2. 単元目標

知識・技能	○ 繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何) - (1位数) で、繰り下がりのある計算ができる。
思考・判断・表現	○ 減加法の考え方ができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 繰り下がりのある計算に興味をもち、「10といくつ」という数の仕組みを用いるよさに気づき、進んで計算しようとする。

3. 学習指導計画 (2時間目/全 10時間)

- (何十) - (1位数) で、繰り下がりのある減法の仕方を考え計算する。(5時間)
 - ブロック操作による繰り下がりのあるひき算の仕方の理解。
 - 繰り下がりのあるひき算の一般化 (本時)
 - 繰り下がりのあるひき算の定着
 - 減数が6以上のひき算の練習と適用題
 - 13-4などの減数が5以下のひき算の練習と適用題
- 繰り下がりのある減法カードを使って、カード遊びをしながら、計算練習をする。(2時間)
- カードを使った加法や減法のゲームをする。(1時間)
- 加法や減法の紙芝居をする。(1時間)
- 学びのまとめ (1時間)

4. 課題解決のための手だて

本学級の児童は、算数の学習に興味をもち、積極的に取り組んでいる児童が多い。たし算(2)の学習では、「10のまとまり」を意識して、数図ブロックを使って考え、操作をしながら答えを求める学習をした。10の補数を利用した計算方法を作り上げ、計算方法を唱えて答えを求めることができた。しかし、数図ブロックの操作を念頭で行いながら、答えを求めることができる児童は少ない。具体的な場面から数図ブロックの操作、言葉による表現、そして式による表現という一連の数学的活動のうち、言葉による表現と式とが結びつかない児童が数名いる。また、繰り上がりのないたし算、繰り下がりのないひき算の習熟が十分でなく念頭でできず、ブロックや指を使って答えを求める児童も多い。また、単純にたし算とひき算を計算できることと数の合成・分解が結びつかずに戸惑う児童も多い。「○と○で○」「○は、○と○」という言葉に混乱する場面も多い。

【手だて1】短時間で学習の見通しをもたせる工夫

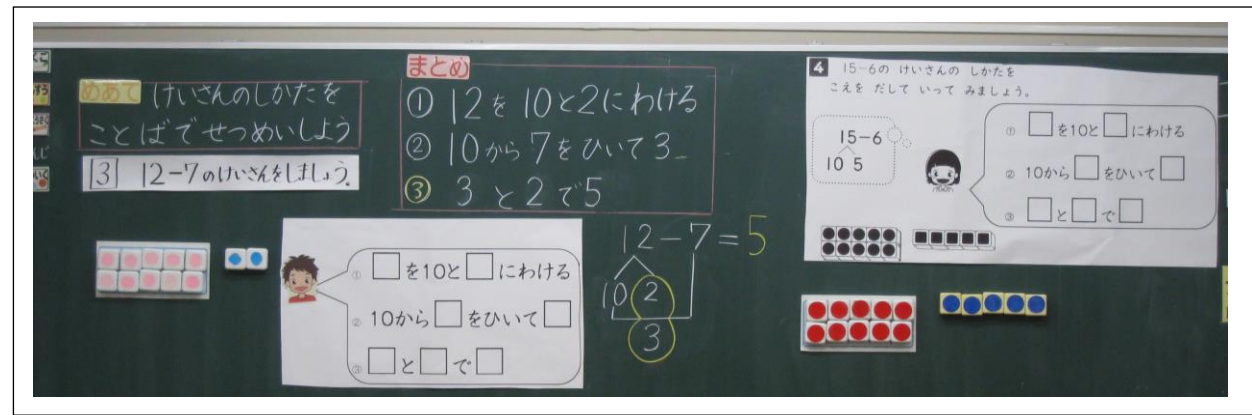
○ 前時の学習を振り返り、10とばらに分けて、10から一度にひくことを意識させる。そして、たし算(2)の学習で計算の仕方をことばで説明したことを想起させ、本時の問題を掲示し、同様にことばで説明することを意識させ、問題解決の見通しを持たせる。

【手だて2】個人思考の際の工夫

- 個人思考では、数図ブロックの操作をしながら、その過程を順に言葉に表すようにする。
- 言葉にできなくても、ブロックの操作ができれば認める。はじめに何をしたら？次に何をしたら？答えは？問いかけながら操作させる。
- 説明の言葉を穴埋めにして、ワークシートにすることで、説明をする手がかりにさせたい。
- ワークシートに10のまとまりのブロック盤をつくることで、10をまとまりとみる既習の見方・考え方の理解を深めさせる。

【手だて3】自分の学びを振り返り「できた!」「分かった!」と実感させる工夫

- どんなことができたか、わかったかということが、詳しく書けるように振り返りの視点を与えて書くように指導する。
- 表情の絵を使い、理解度をふり返ってもよいこととする。



5 本時の学習 令和2年12月8日(火) 第2校時 於: 1年1組教室

- 主眼** (十何) - (1位数) で繰り下がりのあるひき算について、計算方法を作り上げることができる。
- 準備** (教師) 数図ブロック (児童) 数図ブロック
- 展開**

つかむ・見通す	個人思考	集団思考	まとめ	練習問題ふりかえり
<p>1. 既習事項を振り返る。 (1) 13-9の計算について復習する。 ○ 10のまとまりから一度に9をとることを確認する。</p> <p>2. 問題を知り、学習のめあてをつかむ。 (1) 12-7の計算をブロックを使って考える。 ○ 既習学習を使って、10のまとまりから一度に7をひけばよいことを確認する。 ○ ブロックを動かして答えを求めさせる。</p> <p>(2) 本時のめあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて けいさんのしかたを ことばでせつめいしよう。 </div> <p>○ ブロック操作の過程をことばで表すようにさせる。 ○ たし算(2)の学習で言葉で表したことを想起させる。 ○ はじめに、次に、答えは等のことばをつかうようにさせる。</p>	<p>3. 数図ブロックを操作して、12-7の答えを求める過程を順序だてて説明する。</p> <p>○ どのようにブロックを操作したかを順序だてて言葉で説明する。 ○ ブロックの動きとともに計算の仕方を一つずつことばで言わせる。その時に、どこからいくつとるのか、残りのブロックはどうするのかを確かめるようにする。 ○ 何度も12-7のブロック操作をさせ、操作をどう言葉にすればよいか考えさせる。 ○ 言葉にできなくてもブロック操作ができれば認める。</p> <p>【予想される児童の考え】 ○ 10から一度に7をとる。残った3と2を合わせて5。 ○ 10ひく7は3 3たす2は5</p>	<p>4. ペア・全体で話し合う。(ペア) ○ 数図ブロックを動かしながら、言葉で説明できるように、相手への伝え方を確認する。 ○ ブロックの動きとともに計算の仕方を言葉で言わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> はじめに～ ○○しました。 つぎに～○○しました。 (そのつぎに～) こたえは、○○になります。 </div> <p>(全体) ○ ブロック操作をしながら、計算の仕方をとなえさせる。 ○ 全体で言葉に合わせてブロック操作をする。 ○ どうして10から7をとったのか考えさせる。</p> <p>減数の10からひいて残りをたすという、繰り下がりのある(十何) - (1位数)のひき算の仕方を考えたり説明したりしている。</p>	<p>5. 本時のまとめをする。 ○ たし算(2)を想起させ簡単な言葉でまとめるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> まとめ ① 12を10と2にわける ② 10から7をひいて3 ③ 3と2で5 </div> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 12 \\ - 7 \\ \hline 5 \end{array}$ </div> <p>○ 言葉と同様に上の表現も知らせる。</p>	<p>5. 練習問題を解く。</p> <p>○ 15-6の計算を数図ブロックで操作した後、仕方を声に出してする。</p> <p>6. 学習のふりかえりをする。 ○ どんな学習をしたのか・どんなことができたようになったのか・わかったこと・どんなことがわかったのか・ともだちのこの視点の中から選んでふりかえりを書くようにする。</p> <p>ふりかえり ○ 10から先にひいて計算すると簡単にできる。 ○ ブロックを使わずに頭の中で計算できた。</p>

